

# 房総人物語

## 自然と生きる

8



マウンテンバイクで山中を走  
房総森輪会は、ただ走るだけで  
り、自然を楽しむ人たちがいる。は  
なく、間伐材で道を整えたり、

チェーンソーを背負いマウンテンバイクで山中をパトロールする会員。徒  
歩より広範囲を見回ることが出来る。作業道具が詰まったリュックは十数  
\*の自転車より重い。台風後は倒木が多く、インシシが道を荒らすことも  
あり、継続して管理しないとすぐ荒れてしまう。地面を傷つけない走行技  
術も大事なのだと。

房総森輪会

岡部正史さん(61)

倒木を撤去したりして、山林が  
荒れないよう環境保全に取り組  
む。「走らせてもらっている。」

# 銀輪走らせ山林保護 愛好家のあるべき姿実践



間伐材で作った橋の説明をする岡部さん  
=君津市

は、君津市の鹿野山などで、愛  
好家のあるべき姿を実践してい  
る。

× ×  
― 始めたきっかけは。

「林業をなりわいとしてる人  
が減り、走っていてどんどん山  
が荒れていると感じた。最初は  
自分たちが通る道を整備すれば  
良いと思っていたが、そのため  
には森自体の環境を良くしないと  
駄目だと分かった」

× ×  
― 走るからには自分たちでき  
れいにしよう。

「勝手に山に入って遊んでい  
るといふ見方が多いと思う。オ  
フロードバイクや四輪駆動車で  
走り、荒らすだけ荒らして帰る  
人もいる。好き勝手やるのでは  
ない」。

地元の邪魔者になってしまう。  
『マウンテンバイクで走る人が  
いる山はきれいに整備されてい  
る』という状況にしたい。地域  
に理解されることが大切」

× ×  
― 今後の目標は。

「同じ取り組みをする人たち  
を増やしたい。里山活動する人  
は現役をリタイアした高齢者が  
多いが、マウンテンバイクに乗  
る人は若い人が多い。継承して  
継続できる形をつくりたい」

× ×  
会は2012年1月に発足

し、県内を中心に東京都や埼玉  
県の25人が参加する。多くは会  
社員で、勉強会や講習で林業の  
知識を身に付け、毎週末に活動  
している。

地元の理解を得ないとき  
「。岡部さん(市原市在住)